

脱プラスチック 兵庫の技術

大手、ベンチャー 続々参入

■ G20で主要議題

28日に開幕する20カ国・地域首脳会議（G20大阪サミット）では、海洋プラスチックごみの削減が主要議題となる。深刻な環境汚染を食い止めようと、微生物の働きによって分解される「生分解性プラスチック」の製造、販売に取り組み動きが兵庫県関連企業でも広がっている。サミットを機に、兵庫発の技術や製品が注目される可能性もある。

（1面参照）

性を高めた材料を開発した。5月に国内認証を取得し、7月にも自社で成形したスプーンやナイフ、フォークの販売を始める。

航空会社やコンビニなどから問い合わせがあるという、森良平社長は「レジ袋なども作り、海外を含めプラスチックを生分解性に置き換えたい」と意気込む。

川崎重工工業グループの川重商事（神戸市中央区）は3月、自然分解型プラスチック製品の販売を始めた。喫茶店チェーンのプロントコーポレーション（東京）が、関西空港に出した新業態のカフェに採用され、他の複数企業からも引き合いがあるという。

（大島光貴）

化学メーカー大手のカネカは今年12月、高砂工業所（高砂市）で製造する生分解ポリマー（プラスチック製品の材料）の生産能力を年約5千トと、現在の5倍に増強する。

武岡慶樹常務執行役員は「欧州に続き、最近では日本市場が非常に活況。高砂の生産余力が足りない」と強調する。

同社はセブン&アイ・ホールディングス、資生堂とそれぞれ同ポリマーを使っ

たストローや化粧品容器などの共同開発を4月に発表。需要の高まりを受け、量産設備の新設を検討するほか、ペットボトルの代替となる「生分解性樹脂」の研究開発も進めている。

化学系ベンチャーも生分解性プラ事業に乗り出す。GSアライアンス（川西市）は、植物由来のプラスチック「ポリ乳酸」に木材繊維を解きほぐした超極細繊維「セルロースナノファイバー」を混ぜ、強度や生分解

（C）神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

名前

① 高砂市のカネカ工業所で製造している生分解ポリマーは、自然界の中で炭酸ガスと水に分解されます。これは何の働きでそうなるのでしょうか。

② 同社がペットボトルの代替として研究開発を進めているものは何ですか。

③ 川西市のGSアライアンスが開発した材料の説明をしている部分を抜き出しましょう。